



2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年5月14日

上場会社名 株式会社フレアス 上場取引所 東
 コード番号 7062 URL <https://fureasu.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長CEO (氏名)澤登 拓
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員経営企画部長 (氏名)佐藤 真悟 (TEL)03-6632-9210
 定時株主総会開催予定日 2021年6月29日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年6月29日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期の連結業績 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	3,672	—	△16	—	102	—	59	—
2020年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2021年3月期 59百万円 (—%) 2020年3月期 —百万円 (—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年3月期	25.44	25.15	3.9	3.6	△0.5
2020年3月期	—	—	—	—	—

(参考) 持分法投資損益 2021年3月期 —百万円 2020年3月期 —百万円

(注) 当社は、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、2020年3月期の数値及び2021年3月期の対前期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期	3,189	1,559	48.9	668.20
2020年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 2021年3月期 1,559百万円 2020年3月期 —百万円

(注) 当社は、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、2020年3月期の数値は記載しておりません。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年3月期	△99	△296	464	1,215
2020年3月期	—	—	—	—

(注) 当社は、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、2020年3月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,168	28.6	76	—	77	—	45	—	19.61
通期	4,443	21.0	155	—	186	81.2	100	68.9	42.96

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

新規 一社（社名）—、除外 一社（社名）—

(注) 特定子会社の異動には該当いたしません。が、株式会社オルテンシアハーモニーの株式を取得したことに伴い、当連結会計年度より同社を連結の範囲に含めております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2021年3月期	2,332,600株	2020年3月期	2,328,600株
2021年3月期	—株	2020年3月期	—株
2021年3月期	2,331,383株	2020年3月期	2,323,875株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(連結貸借対照表関係)	11
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	11
(企業結合等関係)	11
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	15
(追加情報)	16

1. 経営成績等の概況

当社グループは、2020年6月1日付で株式会社オルテンシアハーモニーの株式を取得し新たに連結子会社としたことに伴い、当連結会計年度より初めて連結財務諸表を作成しております。このため、前連結会計年度との比較分析は行っておりません。

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続いていたものの、米国の保護主義的姿勢の高まり等に加えて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による経済活動の停滞から、景気の先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当社グループが属する在宅マッサージ業界及び訪問看護業界におきましては、少子高齢化が加速する一方で、医療機関における病床数の減少が見込まれるとともに、特別養護老人ホーム等の介護施設の待機者数は、年々増加傾向にあり、政府による地域包括ケアシステムの構築の推進活動と相俟って、在宅療養の重要性がますます高まってきております。

このような状況のもと、当社グループが訪問してサービス提供する対象の一部には介護施設が含まれておりますが、多くの介護施設では新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、外部者の施設への立ち入りを一時的に禁止するなどといった措置がとられております。このため、利用者数及びサービス提供回数が前年比で大きく減少いたしました。一方で、緊急事態宣言が発出されていない期間及び地域については、再開する介護施設も増えております。

また、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に達する2025年頃には、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳以上の後期高齢者になるといういわゆる「2025年問題」の到来が見込まれる環境下において、介護施設等の法人営業を強化することによるサービス利用者のさらなる増大を通じて、「2025年問題」の解決企業として当社グループが事業を遂行していくことを実現すべく、2020年6月1日付で株式会社オルテンシアハーモニーの株式を取得し子会社化することで、マーケットシェア及びサービス提供エリアがより一層拡充いたしました。

なお、株式会社星野リゾートとの業務提携につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、株式会社星野リゾートグループが運営する宿泊施設への宿泊客の減少に伴って当社サービスの利用者が減少したことに加えて、新型コロナウイルスへの感染防止を図るために、2020年4月16日以降は当社サービスを中止せざるを得ず、今後の売上回復には相応の期間がかかることが見込まれたため、これまで本サービスに投下してきた経営資源の適正な再分配を図るべく、2020年6月30日付で業務提携契約を合意解約いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は3,672,197千円、営業損失は16,606千円、経常利益は102,695千円、親会社株主に帰属する当期純利益は59,320千円となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。なお、当連結会計年度より、株式会社オルテンシアハーモニーを新たに連結子会社としたことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「マッサージ事業」から、「マッサージ直営事業」「マッサージフランチャイズ事業」に変更しております。

① マッサージ直営事業

マッサージ直営事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、多くの介護施設で外部者の施設への立ち入りを一時的に禁止された影響による減収が続いておりましたが、緊急事態宣言が解除された期間及び区域に関しては、介護施設に向けてサービスの再開を訴求してまいりました。また、サービス休止中に筋麻痺や関節拘縮といった症状が進んでしまった利用者に対して、日常生活動作能力（ADL能力）の向上を目的として、従前よりも高頻度なサービス提供を提案することで、サービス提供回数の増加に取り組んでまいりました。また、介護施設への営業を強化するなど、引き続き当社グループのサービスの認知度向上を図ってまいりました。

以上の結果、売上高は2,988,992千円、セグメント利益は483,665千円となりました。

② マッサージフランチャイズ事業

マッサージフランチャイズ事業は、株式会社オルテンシアハーモニーの子会社化に伴い、これまでの「フレアス在宅マッサージ」ブランドに加えて、「レイス治療院」ブランドによるフランチャイズ展開を新たに開始いたしました。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新規加盟店のための研修会を一時的に休止してまいり

たが、テレビ会議システムを利用するなど、リモートでの研修会を開催いたしました。これらにより、フランチャイズ加盟店は209拠点の純増となり、当連結会計年度末における加盟店数は237拠点となりました。

以上の結果、売上高は394,620千円、セグメント利益は118,145千円となりました。

③その他の事業

その他の事業セグメントに含まれる主な事業である訪問看護事業は、新型コロナウイルス感染拡大による大きな影響はなく、地域のケアマネジャーに対する営業の強化を通じて、当社グループのサービスの認知活動を推進してまいりました。

以上の結果、売上高は288,584千円、セグメント利益は11,901千円となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は、2,535,892千円となりました。これは主に、売上高の増加に伴い売掛金を891,307千円計上したこと、及びフランチャイズ加盟店への療養費の立替により立替金を372,991千円計上したこと、現金及び預金残高を1,222,581千円となったことによるものであります。

固定資産は、654,003千円となりました。これは主に、株式会社オルテンシアハーモニーの子会社化に伴ってのれんを244,217千円計上したこと及び契約関連無形資産を280,769千円計上したことによるものであります。

この結果、総資産は3,189,895千円となりました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は627,695千円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金を321,044千円計上したこと及び賞与引当金を59,575千円計上したことによるものであります。

固定負債は1,002,842千円となりました。これは主に、長期借入金を705,543千円計上したこと、及び社債を100,000千円を計上したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,630,538千円となりました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は1,559,357千円となりました。これは、資本金を290,394千円計上したこと、及び資本剰余金を280,394千円増加したこと、及び当期純利益を59,320千円を含む利益剰余金を987,858千円計上したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、1,215,381千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、99,964千円の支出となりました。支出の主な要因は、税引前当期純利益112,089千円を計上したこと、及び売上債権の減少による収入104,090千円を計上したこと、一方で立替金の増加による支出365,573千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、296,836千円の支出となりました。これは主に、子会社株式取得による支出292,657千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、464,349千円の収入となりました。これは主に、長期借入れによる収入780,000千円によるものであります。一方で、支出の主な要因は、長期借入金の返済による支出297,163千円、及び社債の償還による支出20,000千円によるものであります。

(4) 今後の見通し

2021年3月期は、当社グループが訪問してサービス提供する対象のうち、一部の介護施設において、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、外部者の施設への立ち入りを一時的に禁止するなどといった措置が取られ、サービス提供が困難になる状況が継続しておりました。一方で、サービス休止中に筋麻痺や関節拘縮といった症状が進んでしまった利用者に対して、日常生活動作能力（ADL能力）の向上を目的として、従前よりも高頻度なサービス提供を提案するなど、施術者の生産性の向上に取り組んでまいりました。

現時点では、依然として新型コロナウイルス感染症の収束時期は見通せておりませんが、2022年3月期連結業績への影響につきましては、2022年3月期中は継続するものの、徐々に縮小していくものと想定しております。

マッサージ直営事業においては、主に介護施設に対して、マスク着用、手洗い、うがい、手指消毒や朝夕の検温といった感染防止対策の実施等の安全性の訴求を継続すると共に、施術者の生産性については引き続き高い水準で維持できるよう取り組んでまいります。また、上記のとおり新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に縮小していくものと想定しており、サービス提供回数（鍼灸サービスに係る回数を除く）は701,465回（前期比14.4%増）を見込んでおります。これらにより、売上高は3,417,803千円（前期比14.3%増）を見込んでおります。

マッサージフランチャイズ事業においては、営業活動や研修会の実施については引き続きテレビ会議システムを活用することでフランチャイズ加盟店の増加を図り、2022年3月時点では277拠点（前期比16.9%増）を見込んでおります。また、2020年6月1日付で子会社化した株式会社オルテンシアハーモニーが通年稼働することにより、売上高は614,251千円（前期比55.7%増）を見込んでおります。

その他の事業においては、2021年4月1日付で千葉県千葉市で居宅介護支援事業と訪問介護事業を運営するスカイハート株式会社を子会社化したことに加えて、訪問看護事業においては、新規ステーションの開設及び営業活動の強化に取り組んでまいります。また、新たな事業である看護小規模多機能型居宅介護について、1事業所の開設を2021年12月中に予定しております。これらにより、売上高は411,223千円（期比42.5%増）を見込んでおります。

以上より、2022年3月期の連結業績予想における通期の売上高は4,443,278千円（前期比21.0%増）、営業利益は155,538千円（前期比172,145千円増）、経常利益は186,098千円（前期比81.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は100,199千円（前期比68.9%増）となることを見込んでおります。

なお、今回公表した業績予想については、現時点で入手可能な情報にもとづき算定したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、日本基準で財務諸表を作成しております。

なお、IFRS（国際財務報告基準）の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

		当連結会計年度 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		1,222,581
売掛金		891,307
貯蔵品		8,897
立替金		372,991
その他		41,864
貸倒引当金		△1,750
流動資産合計		2,535,892
固定資産		
有形固定資産		17,657
無形固定資産		
のれん		244,217
契約関連無形資産		280,769
その他		40,761
無形固定資産合計		565,748
投資その他の資産		
繰延税金資産		39,452
その他		31,144
投資その他の資産合計		70,597
固定資産合計		654,003
資産合計		3,189,895

(単位：千円)

当連結会計年度
(2021年3月31日)

負債の部	
流動負債	
1年内償還予定の社債	20,000
1年内返済予定の長期借入金	321,044
未払法人税等	27,261
賞与引当金	59,575
その他	199,813
流動負債合計	627,695
固定負債	
社債	100,000
長期借入金	705,543
退職給付に係る負債	24,824
繰延税金負債	97,398
その他	75,076
固定負債合計	1,002,842
負債合計	1,630,538
純資産の部	
株主資本	
資本金	290,394
資本剰余金	280,394
利益剰余金	987,858
株主資本合計	1,558,647
新株予約権	710
純資産合計	1,559,357
負債純資産合計	3,189,895

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	3,672,197
売上原価	2,047,610
売上総利益	1,624,587
販売費及び一般管理費	1,641,194
営業損失(△)	△16,606
営業外収益	
助成金収入	130,725
その他	4,757
営業外収益合計	135,482
営業外費用	
支払利息	11,604
リース解約損	2,864
その他	1,712
営業外費用合計	16,180
経常利益	102,695
特別利益	
事業譲渡益	14,400
特別利益合計	14,400
特別損失	
固定資産除却損	0
減損損失	5,005
特別損失合計	5,005
税金等調整前当期純利益	112,089
法人税、住民税及び事業税	48,920
法人税等調整額	3,848
法人税等合計	52,769
当期純利益	59,320
親会社株主に帰属する四半期純利益	59,320

連結包括利益計算書

	(単位：千円)
	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
当期純利益	59,320
包括利益	59,320
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	59,320

(3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	289,638	279,638	928,538	1,497,815
当期変動額				
新株の発行	756	756		1,512
親会社株主に帰属する当期純利益			59,320	59,320
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	756	756	59,320	60,832
当期末残高	290,394	280,394	987,858	1,558,647

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	—	1,497,815
当期変動額		
新株の発行		1,512
親会社株主に帰属する当期純利益		59,320
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	710	710
当期変動額合計	710	61,542
当期末残高	710	1,559,357

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	112,089
減価償却費	35,281
減損損失	5,005
のれん償却額	18,262
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,920
受取利息	△13
支払利息	11,604
助成金収入	△130,725
有形固定資産除却損	0
事業譲渡損益(△は益)	△14,400
売上債権の増減額(△は増加)	104,090
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,446
立替金の増減額(△は増加)	△365,573
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,952
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,849
預り保証金の増減額(△は減少)	48,876
その他	△2,850
小計	△192,822
助成金の受取額	130,725
利息の受取額	13
利息の支払額	△12,171
法人税等の支払額	△25,709
営業活動によるキャッシュ・フロー	△99,964
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,118
無形固定資産の取得による支出	△17,702
敷金及び保証金の差入による支出	△1,642
敷金及び保証金の回収による収入	1,884
事業譲渡による収入	14,400
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△292,657
投資活動によるキャッシュ・フロー	△296,836
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	780,000
長期借入金の返済による支出	△297,163
社債の償還による支出	△20,000
ストックオプションの行使による収入	1,512
財務活動によるキャッシュ・フロー	464,349
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	67,548
現金及び現金同等物の期首残高	1,147,832
現金及び現金同等物の期末残高	1,215,381

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(連結貸借対照表関係)

有形固定資産の減価償却累計額 24,392千円

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

当連結会計年度	
(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	
現金及び預金勘定	1,222,581千円
預入期間が3か月を 超える定期預金	△7,200千円
現金及び現金同等物	1,215,381千円

(企業結合等関係)

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社オルテンシアハーモニー
事業の内容 マッサージフランチャイズ事業

② 企業結合を行った主な理由

当社グループは、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に達する2025年頃には、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳以上の後期高齢者になるといういわゆる「2025年問題」の到来が見込まれる環境下において、介護施設等の法人営業を強化することによるサービス利用者のさらなる増大を通じて、当社グループが「2025年問題」の解決企業として事業を遂行していくことを目標としております。介護施設等の法人営業を強化するためには、サービス提供エリアのより一層の拡充が必要不可欠であるため、全国規模で訪問マッサージのフランチャイズ運営を行っている株式会社オルテンシアハーモニーの株式を取得し子会社化いたしました。

③ 企業結合日

2020年6月1日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

結合後企業の名称に変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100.0%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が、現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 連結会計年度に係る連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年6月1日から2021年3月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価 現金及び預金	449,857千円
取得原価	449,857千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等 6,800千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん金額

253,627千円

② 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

13年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 7,500千円

固定資産 300,000千円

資産合計 307,500千円

固定負債 111,270千円

負債合計 104,070千円

(7) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及びその主要な種類別の内訳並びに主要な種類別の加重平均償却期間

主な種類別の内訳	金額	償却期間
契約関連無形資産	300,000千円	13年

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、サービス別に組織を構成した上で包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。当社は、主として医療保険制度の適用対象となるマッサージサービスを提供する「マッサージ直営事業」及び「マッサージフランチャイズ事業」を主たる事業としており、訪問看護事業などについては「その他事業」としてしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額(注) 3
	マッサージ 直営	マッサージ フランチャイズ	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,988,992	394,620	3,383,613	288,584	—	3,672,197
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,988,992	394,620	3,383,613	288,584	—	3,672,197
セグメント利益	483,665	118,145	601,811	11,901	△630,319	△16,606
セグメント資産	871,802	958,117	1,829,919	51,416	1,308,558	3,189,895
その他の項目						
減価償却費	3,348	19,244	22,592	—	12,688	35,281
のれんの償却額	2,004	16,258	18,262	—	—	18,262
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	—	553,627	553,627	—	18,820	572,448

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、訪問看護事業等を含んでおりません。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金等の全社資産であります。

(3) 減価償却費の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産に係る減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社等の設備投資額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり純資産額	668.20円
1株当たり当期純利益	25.44円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	25.15円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	59,320
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	59,320
普通株式の期中平均株式数(株)	2,331,383
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—
普通株式増加数(株)	27,059
(うち新株予約権)(株)	(27,059)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	—

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (2021年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	1,559,357
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	710
(うち新株予約権)(千円)	(710)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,558,647
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	2,332,600

(重要な後発事象)

(子会社の異動を伴う株式取得)

当社は2021年3月15日開催の取締役会において、居宅介護支援事業及び訪問介護事業を行うスカイハート株式会社の株式を譲り受ける契約を同日付けで締結し、2021年4月1日に株式取得を実行し、スカイハート株式会社を完全子会社といたしました。

1. 取得の理由

当社は、「全国津々浦々に、一人でも多くの方に速やかにフレアスのサービスを提供し、日本の在宅事情を明るくする。」という経営ビジョンのもと、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に達する2025年頃には、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳以上の後期高齢者になるいわゆる「2025年問題」の解決企業として、在宅マッサージサービスの拡大を推進するとともに、訪問看護及び訪問介護事業を展開してまいりました。

今般、千葉県千葉市を中心に事業を展開してきたスカイハート株式会社の株式100%を譲り受けることにより、同地域における居宅介護支援事業と訪問介護事業に参入し、在宅マッサージとの複合サービスを提供することで、社会福祉サービスを総合的に提供できる企業に成長してまいります。

2. 異動する子会社の概要

(1) 名称	スカイハート株式会社	
(2) 所在地	千葉県千葉市稲毛区稲毛台町12番12号	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 山田 裕子	
(4) 事業内容	居宅介護支援事業、訪問介護事業	
(5) 資本金	5,000千円	
(6) 設立年月日	2007年9月14日	
(7) 大株主及び持株比率	山田 裕子 (100%)	
(8) 上場会社と当該会社との間の関係	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。

3. 株式取得の相手先の概要

(1) 名称	山田 裕子
(2) 所在地	千葉県浦安市
(3) 上場会社と当該個人との関係	当社と当該個人及びその近親者との間には、資本関係、人的関係及び取引関係はありません。

4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	一株 (議決権の数：一個) (議決権所有割合：一%)	
(2) 取得株式数	500株 (議決権の数：500個)	
(3) 取得価額	スカイハート株式会社の普通株式	5,000千円
	アドバイザー費用等(概算額)	500千円
	合計(概算額)	5,500千円
(4) 異動後の所有株式数	500株 (議決権の数：500個) (議決権所有割合：100%)	

※1. 本件における株式取得価額の算定に当たっては、第三者機関による適切なデューデリジェンスを実施し、DCF法による株式価値算定を行っており、価格の妥当性を検証するための十分な手続きを実施しております。

2. 本件の取得資金につきましては、全額自己資金を充当いたします。

5. 日 程

(1)	取締役会決議日	2021年3月15日
(2)	契約締結日	2021年3月15日
(3)	株式譲渡実行日	2021年4月1日

(追加情報)

(新たな事業の開始)

当社は、2021年4月15日開催の取締役会において、新たに看護小規模多機能型居宅介護事業を開始することを決議いたしました。

1. 事業開始の趣旨

当社グループは、「全国津々浦々に、一人でも多くの方に速やかにフレアスのサービスを提供し、日本の在宅事情を明るくする。」という経営ビジョンのもと、在宅マッサージサービスの拡大を推進するとともに、訪問看護及び訪問介護事業を展開してまいりました。

しかしながら、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に達する2025年頃には、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳以上の後期高齢者になるといういわゆる「2025年問題」が到来し、多くの医療難民、介護難民の発生への対応が社会問題となることを見込んでおります。このような環境下、「2025年問題」の解決企業として当社が事業を遂行し、在宅療養を余儀なくされている方の生活を豊かにしていくためには、在宅マッサージサービスの拡大だけでなく、看護や介護などとの連携をより一層強め、社会福祉サービスを総合的に提供できる企業へと成長する必要があると考えております。

そこで、これまでの訪問看護や訪問介護に加えて、利用者が通い（デイサービス）や泊まり（ショートステイ）での利用が可能となる看護小規模多機能型居宅介護事業を開始することといたしました。

2. 本事業の概要

(1) 本事業の内容

看護小規模多機能型居宅介護とは、医療依存度の高い利用者が在宅生活を営む中で生じる様々なニーズに対して、従来型の介護施設で行われていた通いや泊まりでの利用に加えて訪問看護や訪問介護といった複合的なサービスを、看護小規模多機能型居宅介護事業所を設立することで実現する介護保険サービスです。

また、国が推進している、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるための「地域包括ケアシステム」の中心的な役割を期待されている事業でもあります。

(2) 本事業を担当する部門

開発企画部

(3) 本事業の開始のために特別に支出する金額及び内容

2022年3月期は、当社グループにおいて2021年12月中に1事業所の開設を予定しております。

なお、1事業所の設立のための土地の賃借料として3,600千円（年額）、建物の建築費用として110,000千円、事業所内の什器備品費用として14,700千円、合計128,300千円を見込んでおります。

3. 日 程

(1)	取締役会決議日	2021年4月15日
(2)	事業開始期日	2021年12月中（予定）